



Cisco Unified MeetingPlace Express のデータのバックアップ、アーカイブ、 復元

この章には、次のトラブルシューティングに関するトピックがあります。

- [データのバックアップ \(P.2-2\)](#)
- [データのアーカイブ \(P.2-3\)](#)
- [データの復元 \(P.2-4\)](#)

この章を確認した後も Cisco Unified MeetingPlace Express に関する問題が解決しない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。Cisco TAC へのお問い合わせについては、[P.xiii](#) の「[テクニカルサポート](#)」を参照してください。

データのバックアップ

Cisco Unified MeetingPlace Express の Administration Center を使用して、自動的にデータをバックアップするように設定することができます。

自動バックアップ機能を無効にしても、手動でデータをバックアップできます。ただし、自動バックアップを無効にする場合は、一度に 1 つのバックアップだけを実行するようにしてください。

データを手動でバックアップするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **mpxadmin** ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムにログインします。

ステップ 2 [password] プロンプトで、**mpxadmin** のパスワードを入力します

Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムのデスクトップが表示されます。

ステップ 3 デスクトップを右クリックします。

ステップ 4 メニューから、**[New Terminal]** を選択します。端末セッションが始動します。

ステップ 5 次のように入力して、手動でデータをバックアップします。

```
sudo $MP_DATABASE/db-maintenance/backup.sh
```

ステップ 6 デスクトップで、**[RedHat] > [Network Services]** をクリックします。

ステップ 7 **[Log out]** をクリックします。

データのアーカイブ

Cisco Unified MeetingPlace Express の Administration Center を使用して、自動的にデータをアーカイブするように設定することができます。ただし、データを手動でアーカイブする場合は、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 `mpxadmin` ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムにログインします。

ステップ 2 `[password]` プロンプトで、`mpxadmin` のパスワードを入力します

Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムのデスクトップが表示されます。

ステップ 3 デスクトップを右クリックします。

ステップ 4 メニューから、**[New Terminal]** を選択します。端末セッションが始動します。

ステップ 5 次のように入力して、手動でデータをアーカイブします。

```
sudo $MP_DATABASE/db-maintenance/archive.sh
```



(注) `archive.sh` スクリプトでは、`$MP_DATABASE/db-maintenance/settings.config` ファイルで定義されたリモート ログイン クレデンシャルが使用されます。これらのクレデンシャルは、Cisco Unified MeetingPlace Express の Administration Center を使用して設定できます。

ステップ 6 デスクトップで、**[RedHat]** > **[Network Services]** をクリックします。

ステップ 7 **[Log out]** をクリックします。

データの復元

データを復元すると、データベース サーバのデータがバックアップ記憶域と論理ログ ファイルから再作成されます。データベース サーバのデータを格納した障害ディスクの置換、ロジック エラーを含むプログラムによるデータベースの破損、データベース サーバのデータの新コンピュータへの移動、ユーザによる偶然のデータ破損またはデータ破棄などの場合に、データを復元しなければならないことがあります。

障害発生時点までデータを復元するには、少なくとも 1 つの L0 バックアップが必要です。復元は、Informix の **ontape** コマンドを使用して実行されます。Cisco Unified MeetingPlace Express には、復元プロセスを簡単に実行できる `restore.sh` というスクリプトが用意されています。このスクリプトは、`$MP_DATABASE/db-maintenance` ディレクトリにあります。

バックアップには複数のレベル (L0、L1 および L2) があります。データを復元するには、正しい順序のバックアップ ファイルが必要です。たとえば、正しい L0 と L2 のバックアップ ファイルがあっても、それに対応する L1 バックアップ ファイルがなければ、データを復元することはできません。手動で作成したバックアップ ファイルをローカル ディスクまたはアーカイブ場所に置いている場合は、特に注意が必要です。



注意

復元が可能なデータベースは、同じバージョンの Cisco Unified MeetingPlace Express 製品のものだけです。前のバージョンで作成されたデータベースは復元できません。

復元前後のデータベース名は同じである必要があります。

バックアップ ファイルからデータを復元するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** `mpxadmin` ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムにログインします。
- ステップ 2** `[password]` プロンプトで、`mpxadmin` のパスワードを入力します
Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムのデスクトップが表示されます。
- ステップ 3** デスクトップを右クリックします。
- ステップ 4** メニューから、**[New Terminal]** を選択します。端末セッションが始動します。
- ステップ 5** 次のように入力して、Cisco Unified MeetingPlace Express アプリケーションをシャットダウンします。
`mpx_sys stop`
- ステップ 6** 次のように入力して、データを復元します。
`sudo $MP_DATABASE/db-maintenance/restore.sh`
- ステップ 7** デスクトップで、**[RedHat] > [Network Services]** をクリックします。
- ステップ 8** **[Log out]** をクリックします。